

1 審議会名	上田市庁舎改修・改築検討委員会
2 日時	平成29年5月22日 午後3時00分から午後5時20分まで
3 会場	上田市役所本庁舎6階大会議室
4 出席者	高木直樹会長、丸山正明副会長、伊藤英一委員、金井美奈子委員、沓掛由利子委員、小山陽三委員、藤川まゆみ委員、不破泰委員、宮本智夫委員
5 市側出席者	神代総務部長、小野塚政策企画部長、清水庁舎整備担当参事、翠川都市建設部長、海瀬行政管理課長、田村建築課長、倉島財政課長、若林庁舎整備室長、梅原建築担当係長、小林庁舎整備担当係長、宮原庁舎整備担当係長、渡辺行政改革担当係長、吾妻庁舎整備室主査、野田建築課主任、坂口庁舎整備室主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	7人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	平成29年5月**日

協 議 事 項 等

1 開 会 (海瀬行政管理課長)

2 報告事項

(1) 第8回検討委員会について

- ・資料に沿い、4月20日(月)に開催した第8回検討委員会の会議概要について若林庁舎整備室長から報告

3 検討及び協議事項

(1) 配置計画について

- ・資料に沿い、若林庁舎整備室長から配置計画について説明
- ・以下、協議

(会 長)・今日、ここで「A案がいい」、「B案にしましょう」と決めるつもりはないが、もし皆さんが一致して、明らかに無理だというものがあれば、この委員会として集約して、外しておいてもいい。

(委 員)・上田市の防災計画の中で、ここで大きな災害が起きたときに、市役所の駐車場というのが非常に重要な場所になり、炊き出しを行ったり、いろいろな確認を行ったりということをするが、それを考えたときに、例えばB案、C案の平成33年度はほとんど駐車場スペースがなくなってしまう。十分その代替のスペースがあれば特にこれは障害にはならないと思うが、そのあたりはどうか。

(事務局)・駐車場の問題が、B案、C案の一番のネックになり、駐車場に庁舎を建てるので、付近で代用する駐車場の確保が非常に大きな課題になる。駐車場が確保できたとしても、工事の間は、道路を横断して市役所に入ることになる。それが何か月というスパンではなく、何年という長い期間になるということである。通常駐車場の利用自体が一番の問題であり、防災計画上は、市役所は避難の場所とは記載はないが、なり得る可能性はある。もちろん庁舎が災害対策本部ということにはなっており、そういった対応の付帯的な避難所になるので、支障が出る可能性は想定される。

(委 員)・本部が市役所にあるということは、災害発生時には関係車両等がこの近くに停められなければ仕事にならないし、通信等いろいろなものが使えない、危なくて庁舎に入れられないといったときに、駐車場に仮の市役所を設けて市民を守るということをやらなければいけないこともあると思う。そういうときに、道路を渡ったところに駐車場があって、そこで展開できるも

のなのか、やはりこの身近に駐車場がなければいけないのか、その辺りを防災計画と併せて考えておく必要があると思う。

(事務局)・貴重なご意見なので、今後の配置計画を立てるにあたり、一つの要素になると思う。

(委員)・北庁舎等の統合の話だが、以前から市民の方が手続きの際に、あっちにもこっちにも、教育委員会にも行かないといけないということは問題になっていた。「部分的に集約できるかもしれない」という話もあったが、市の職員はどの程度不便を感じているか、それによって、集約が前提なのか、すぐできなくても、今できることをできるだけやろうと考えるかどうかで、今はできなくても徐々にと思うかによって判断が変わってくると思う。

(事務局)・窓口が1か所になって、できるだけコンパクトに、いくつかの窓口を回らないでできることが一番理想にはなるが、規模の問題があり、なかなかできない。ただ、一部、証明書の発行等には、業務のやり方で解決できるものがあるのではないかという話が基本構想のときからあった。また、市役所の職員が、通常の業務としてどうあった方がいいかということについて、前々から多少検討してきてはいるが、今、継続して庁内で部署の集約の意見等をまとめる作業をしている。その積み上げで、面積がどうかということにつながってくる。中には、それほど市民と直接、対話等をしなくてできる部署もあるので、そういった部署がこの場所ではなくても可能な場所がないかなど、そのような観点も、いろいろなことを検討していく一つの点ということで、積み上げをしているという状況である。

(会長)・結局は、例えば 10,000 (㎡) なのか、やはり 13,000 (㎡) 必要なのか、9,000 (㎡) でいいのかということに直接関わる話なので、その辺は庁内でなるべく早くまとめてほしい。

・例えば、どうしても 13,000 (㎡) なければいけないということになれば、ある程度絞られてくるし、13,000 (㎡) が必要ないということになれば、その 13,000 (㎡) を前提にした案はカットできるようにもなる。

(委員)・もっと、工期を短期間で進める方法はないか。

(事務局)・他市の事例等を見ると、18 か月以上、21 か月ぐらいまでかかっているところもあり、これでもかなり短縮を図った計画となる。また、(工事を) 始める時期についても、計画を策定して、設計を行ってという段階を踏むので、ここで始めるのが、現在考えられる最短のスケジュールだと考えている。

(会長)・例えば、今の市役所の機能を、一度全部どこかに引っ越しをして、その間に南庁舎を除いて更地にして、そこに建てれば簡単は簡単だと思うが、それをすると、年間で数億円規模の事務所のレンタル料、引っ越し代がかかり、その分建物を安くしなければならぬというようなことで、おそらくギリギリのところで行っているのではないかと思う。

・市役所を普段から使われている方にとってみると、一時期とはいえ駐車場が 0 になるということは不便と言えば不便である。一時期と言っても1年ぐらいは無いので、その1年間、身障者用の駐車場ぐらいは最低限確保するべきだとは思いますが、一般の方は市役所に用事があるのに駐車できない。北庁舎、あるいは北側の31台の駐車場が使えれば、それほど難しくないが、そこもいっぱいだと「どこに停めるんだ」というような話が出てくる可能性はある。

(委員)・C案で、オープンスペースが少ないというのがある。工事が難しいのであれば、C案はできないということではないか。

(事務局)・まったく不可能ではないと思うが、そういう狭い中で建設するのは、かなり難しく、費用もかかる工事になるかと思う。

(会長)・不可能なほど狭くはないと思う。その代わりに、そういったノウハウのないゼネコンは造れないので、参加の幅が狭くなるというデメリットはある。

(委員)・その分費用がかかるというのを加味した金額がこの事業費なのか。

(事務局)・若干、コスト高というぐらいの見込みはしているが、十分仮設費用も見込んでいるかという点、検討はまだ不十分かと思う。

(委員)・金額についても、もう少し詰めていく必要があるということか。

(事務局)・そう考えている。

(会 長)・A 案、A2 案、B 案、C 案について、それぞれのメリット、デメリットは理解した上で、いろいろあるがこれは仕方がない程度のことは認めていただくということで進めさせていただく。

(2) 施設整備の考え方について

- ・資料に沿い、若林庁舎整備室長から施設整備の考え方について説明
- ・別途、藤川委員から 5 月 15 日 (月) に開催した勉強会の内容について報告
- ・以下、協議

(委 員)・バリアフリーというのは、後から、例えば、障がいのある方や高齢の方が使われるようにするためにはどこかで直さないといけない。後から直すというのはかなり費用がかかる。ただし、ユニバーサルデザインは、設計の段階からそういう方の利用を見込んでおいていれば、後からでもそれほど経済的に大きな負担がなく作れるというのが一番大きなところである。ユニバーサルデザインとバリアフリーというのは、途中経過と結果と切り分けていただくと、とてもわかりやすい概念だということ考えていただければと思う。

- ・最初からバリアフリーである必要はないと思う。例えば、日本語以外の表記をたくさんつけないといけないということまで見越して、表示の部分を手軽に変えられるような設計にしておくというのがユニバーサルデザインの考え方だとお考えいただければと思う。後から変えるのは大変なので、そこまで見越して、どのようなデザイン、設計にしておくかというのが、ユニバーサルデザインの一番大きなポイントだと思う。
- ・今後、新しい庁舎になったとしても、人口が変わってくれば、庁舎の中の機能が変わってくると思う。そのときに、いかに安く庁舎内のスペースを再構築できるかということを考えることが一番大きなメリットだと思われるので、その辺をもう一つ知恵をつけていただければと思う。

(会 長)・今どきの市庁舎でユニバーサルデザインに合致した建物を作るというのはもうあたりまえになっている。しかし、設計者は自分自身のデザインコンセプトがあるので、どうしてもそういう風にしてしまう。それに対して、今みたいなことを言うておいていただければ、基本設計の中にも、「表示板等は後から自由に換えられるような形にしておいてください」と書いてしまえばいい。それは間違いなく生きるもので、そういう意味では非常に参考になる意見である。

- ・「階層を吹き抜け等とする」と言うと、床面積の問題が出てくるわけで、「こんなに広い面積を吹き抜けにしたときに、果たして足りるのか」という現実論が必ず出てくる。そういう意味では、この資料の中に、「階層を吹き抜け等とすることにより目的の窓口が見つけやすい」というのは書いていいのかなと思う。こういうものが出ると、基本設計で設計者がプロポーザルするときに縛られてしまうリスクはある。

(事務局)・そういう指摘もいただいたので、再検討はしたいと思う。少しは吹き抜けを設けたいと思っ
てはいる。これは他市の例で、このようになるに越したことはないが、面積の縛りがある。

(会 長)・「敷地が狭くて工事が大変」というのと、「建物の面積が増やせない」という絶対的な条件というのは絶えず引っかかってくると思うので、いろいろなことを考えていくときに、そのことを頭の隅に絶えず入れていないと、他市の例を挙げるときに、土地だけはいくらでもあるようなところと一緒にしてしまうと少し危ない。

(委 員)・今、庁舎をいろいろなところで建てていると思うが、書かれてあるようなことを徹底的に調査して、「ここは費用がかかりすぎて失敗だった」とか、「こういう風にやればよかった」とか、なるべく情報を集めていただいて、設計者の方に「これとこれだけは入れてください」という形で提言はしていかないといけないような気がする。

(事務局)・考え方はこのように書いたが、一つ一つの項目においても低レベルから高レベルがあり、ど
ういったものを取捨選択していくか、次の基本設計に入ったときにやっていく。その前に基

本計画の段階で、ある程度、市民の皆さんにもご理解いただくためにも、考え方はこういうものは持っているが、そこに一歩でも二歩でも一つずつ近づけていければと考えており、参考に調べてはみたいと思う。

- (委員)・例えば、プロポーザルをするときに、これが条件だというものも必要ではないかと感じている。例えば、エネルギー消費量の削減を数字で表すというのはどうか。ゼロエネルギービル、ZEB の言葉がまったく出てきていないので、国としてはずいぶん前から方針として出てきているので、それを採用するのはどうか。ZEB もまだ定義がはっきりしていなかったり、「省エネだけで何パーセント減」、「自然エネルギーを使ってできれば 100 パーセント相殺できる」といった考え方もあるが、「上田市としては何パーセント減を目標とする」といったような数字を入れるのはどうか。「通常の建物の 50 パーセント減」というのは、よく使われている数字で、それが実際に実現できるかどうかは別として、そういった数字を入れるのはどうか。
- ・費用対効果についても、数字を入れてはどうか。例えば「平均的な金額よりも 10 パーセントアップしたら、10 年で回収できる」といった指針も書いておくと、それが実現に近づくのではないと思う。
 - ・自然エネルギーで、木質バイオマスがまったく出てきていない。実現可能かどうかは、その土地の状況にもよるが、「検討する」と入れてはどうか。
- (事務局)・ZEB について、以前もそういうご意見をいただいていたので、少しこちらの方でも調べている。政府の方でエネルギー基本計画やパリ協定における温室効果ガスの削減目標の達成に向けて、ビルの実質エネルギー消費量を 0 にしようというのがこの ZEB ということである。公共施設に関しては、最終的には 100 パーセントの 0 を目指しているようだが、まだ実際に 100 パーセントはかなりハードルが高く、難しい状況だということである。最近、「50 パーセントのエネルギー削減を進めたらどうか」ということが国の方から提案されており、これもまだ事例が少なく、先進的な技術を取り入れることが必要となるので、これについても検討をさせていただければということである。どこまで書けるかということも検討させていただければと思う。
- ・こちらの資料を見ると、「通常のビルに比べ 50 パーセント（削減）を達成するためには、コスト 10 パーセントアップ」というようなことも書かれているので、その辺も含めて検討させていただければと思う。
 - ・実際は事業費との問題になると思う。それを採用するかどうか、市役所の庁舎もほかにもいろいろな機能があるので、そういったものとのバランスを見ながら、本当に 10 パーセントの（コスト）アップでできるのか、下調べをしながら検討はしなければいけないと思っている。
 - ・費用対効果について、エネルギー源を何を求めるのか、どういったものが一番効率的か踏まえた中で検討はしていかなければいけないと思っている。設備がよくなることで、当然（エネルギー消費量が）減る分もあり、そういったことと複合的な形でのことだと思っている。
 - ・木質バイオマスについては、どの程度庁舎にエネルギーとして使うことが可能か、それをエネルギーとして持ってくるだけで費用がかかったり、その設備の維持等も含めると、簡単にはいかないというような実感としてはあるが、検討としてはする必要はあると思う。
- (委員)・木質バイオマスは最優先ではないと思う。しかし、エネルギーに関することは、お金を生み出すことができる。将来の経済を考えるとというような視点をお願いしたい。
- (会長)・上田市は当然、環境基本計画は持っていると思うが、あるいはそういったことに関する実行計画等で、温室効果ガスの削減などについて、具体的な数値は持っていないということか。
- (事務局)・既存庁舎に対しては、現在のものとは比べての目標値はあったと思う。
- (会長)・例えば、上田市全体として「何年までにどのぐらい削減」という計画があり、「それを支えるために、行政としてはこういうことをやる」というのがあって、例えば、「市の施設に関しては何年度までに何パーセント削減する」というようなことがあるなら、「国がこういう

風にしています」ではなく、「上田市もこういう基準を持っているので、それを意識して」ということを書いておくことで、「それなりのものを造らなくてはいけない」ということは見えてくると思う。例えば、「そのためにコストが少し上がるが、30年ぐらいのスパンで考えていけば、ペイします」というようなことは十分あり得ると思うので、すでに決まっている計画は書き込むことがいいかと思う。

・今日の話と少しずれるが、例えば、この部屋には9つの照明器具のスイッチがついているが、それは、一つは省エネのためについている。ところが、いくつ細かく区切っていても、ほとんどの場合、つけるときは全部つけてしまう。昼間の明るさに応じて照明がついたり消えたりするようなことはLEDになると簡単にできるので、そんなことが市役所の中でできると、太陽光を使った省エネ化のようなことはできるので、それもコストが上がるから駄目だと言われれば駄目だが、頭に入れておいていただければと思う。

(委員)・建築士会の方でも、この機会に、上田市のまちづくりを見つめ直そうという企画で、まちづくりのワークショップを7月4日の午後、合庁の南棟で開催の予定である。その中で出た意見をこちらの方に活かさせていけたらと思っている。

(委員)・ユニバーサルデザインというのは、要は、いろいろなところにある格差をなくすということである。情報格差というものがあるが、市の広報の冊子があり、まったく同じものがホームページにも載っている。これは、デジタル化のものが見られない人たちのために紙媒体で来るということである。ユニバーサルデザインも含め、その中で情報デバイスの格差をいかに無くしたらいいかということも一つのテーマにしておいてもいいのではないか。

・先ほど出た照明のコントロールについて、IoT (Internet of Things)、AIの関係もこれから、人工知能AIでコントロールできるようになってくるのではないかと思う。そういうことになってくると、コンピューターを全部使うようになり、ネットを使うと必ずセキュリティーの問題が出てくるので、セキュリティーに関しての勉強会も企画しようと思っている。

・市庁舎の改築ということで、ハード的なことが主になっている。ハードがしっかりしていれば、あとからソフト的なものを付け加えればどうにでもなると思うが、どうにもならない部分もあるので、その辺を協議しながら、10年、20年後、「さすが先進的な市庁舎だったな」ということが見直されるような形に持っていきたいと思っている。

(会長)・やり方としては、勉強会のようなもので、その結果をフィードバックしてもらおうとか、直接担当の方と相談して、あるいはこの場で提案していただければと思う。

(委員)・断熱性能を高めることで、初期費用がかかると思うが、ぜひ費用対効果を検討していただき、なるべく多くやってもらいたい。開口部のガラスは、複層ガラスは最大が4層で、そういうものを使えば費用も大きくなるが、複層ガラスがいいのか、二重サッシがいいのか、いろいろな断熱性能があると思うので、その点を検討していただきたい。

・木を使ったデザインとするということは大賛成だが、外部だけでなく、内装にもできるだけ木を使うという考えでいいか。

・緑化について、今のスペースの中で、果たしてどのくらい植栽ができるか心配である。「緑風を取り入れて、できるだけ自然を利用する」と書いてあるが、できればこの敷地の中に緑を増やしてもらいたい。

・これらの施設整備の考え方というのは、南庁舎の改修の中にも取り入れられるという解釈でいいか。

(事務局)・今日、説明をさせていただいたのは、本庁舎の改築を基本とした考え方になるが、南庁舎を改修するにあたって、できるだけそういった方向で、ただ、物理的にできないことがあるので、可能な範囲でやっていききたいと思っている。南庁舎については、別立てで説明する機会を設けさせてもらいたいと思っている。今、段差があったり、トイレが狭いとか、いくつかバリアフリーの点からも課題があるので、そういった点をできるだけ解消するような形で改修もしていききたいとは考えている。

・緑化率は、景観計画では(敷地面積の)3パーセントという基準もあるので、当然それは確

保していくことになるが、3パーセントがいいのかという問題があるので、駐車場の問題、規模の問題とも、同じ敷地の中での取り合いになるので、そういった観点からも、設計の中でしっかり検討していくべきだと思っている。

・木材については、内装材にも、当然使える地元の木材を使っていければと考えている。

(会 長)・この13ページのところで、「屋上の緑化など」と書いてあるが、「敷地内の緑化、屋上の緑化など」と書いても何も問題はなさそうな気がするので、どこまで緑化できるのかを検討して、コンクリートで固めなくて済むところは少しでも緑化する努力はしてほしいということだと思う。

・駐車場の一部のアスファルトを剥いで、そこに芝を植えるというようなことをやるだけで、だいぶ雰囲気はよくなり、雨水の地下浸透も圧倒的に変わるので、もし庁舎の中で地下水を利用しようというときには、そういうことが後々効いてくることになるかもしれない。

・「屋上の緑化」と書いてある13ページのところを、屋上だけではないので、「敷地内及び屋上の緑化」程度のことは書いてあってもいいとは思う。

(委 員)・庁内のいろいろな施設をクラウド化する予定があるのか、あくまでも庁内にサーバーを持つ方向で行くのか、それによって、建物の中でサーバーームをどのように持つのかとか、そういうものが省けるのかというものが変わってくると思う。そのあたりを検討しておかないと、無駄なサーバーームができてしまうとか、逆に、全然足りない部屋ができてしまうとかいうことになる。

・それと併せて、BCP、事業継続性をどのように確保するかということ、物理的な建物の中で考えないといけないと思っている。

・庁舎内のネットワークも、例えば、市民に開放する市民がアクセス可能なネットワーク、庁内の業務をおこなうネットワーク、住民情報を扱う機密性の高いネットワークをどのように分けて、分けるだけではなく、それを物理的に人が出入りできないような形でどう分けるのか、設計の段階でそこを配慮しておかないと、あとで大変なことになってしまう。

(事務局)・今、南庁舎にサーバーがあり、南庁舎の耐震補強工事をやるときに、振動の影響がどうかということ、どういった形に持っていくのがベストなのかということでも検討をしている。それが、ひいては本庁舎にサーバーを置くのがベストなのかということにも繋がってくると思う。今、庁内でも部門ごとに検討しているので、その中の一つとして情報の関係についても検討している。

(委 員)・「自転車のまち」のような、「市役所に自転車で来よう」というようなところを作られてはどうかと思っている。市民の皆さんに「駐車場はないけれども、ぜひ自転車で」といったことも、どこかにもし書けるならどうか。

(事務局)・庁舎の計画で、「自転車のまちづくり」というのはなかなか書きづらい点もあるかと思う。前にもそういった話があったので、「駐輪場」ということで基本構想に記載させてもらった。それをまた受けて、基本計画でも記載することになるかと思う。

(3) その他

・次回開催日程について

次回の検討委員会は6月28日(水)の午後1時40分から開催する。

協議結果：○配置計画については、それぞれのメリット、デメリットを理解した上で、検討を進める。
○今回の検討委員会で出された意見も踏まえ、基本計画における施設整備の考え方を検討する。
○個別の専門分野において開催された勉強会の内容は検討委員会にフィードバックまたは提案をしよう。